

販売員の活動を支えるボランティア

—『ビッグイシュー名古屋ネット』—

名古屋駅や栄、今池などの街角で雑誌『ビッグイシュー』を販売している人たちがいます。この販売員たちは、ホームレスや生活困窮状態でありながら、雑誌を販売し、収入を得ることで自立を目指しています。

雑誌『ビッグイシュー』って？

『ビッグイシュー』はホームレスの人々が販売している雑誌です。「ホームレスの仕事をつくり自立を応援する」ことを目標に、1991年に英国ロンドンで創刊し、2003年より日本でも創刊。現在では全国15都道府県で販売しています。

名古屋では2006年から「ビッグイシュー名古屋ネット」の支援により販売されており、現在、4人の販売員が市内の街角で活動しています。そんな販売員たちの活動を支えているのが、ビッグイシュー名古屋ネットのボランティアの皆さんです。今回、ボランティアの生田さんと町田さんにお話をうかがいました。

ボランティアってどんなことをするの？

ボランティアの内容は、地下鉄「新栄町」駅近くにある事務所に行き、雑誌の仕入れ・受け渡しのお手伝いや在庫確認、パソコン入力などになります。現在7人程度のボランティアが、それぞれ都合の良い日の夕方頃、月1回1時間ほど参加し、運営を行っています。

ボランティアの魅力

「ビッグイシューの販売員になる方は、住居を失ったり、生活が困窮したりしているため、最初は暗い雰囲気の方もいるが、販売を始めて続けていくうちに、どんどん明るくなってくる。その様子を見てると、うれしい気持ちになる」と生田さんは話します。雑誌の受け渡

しの時などに、ちょっとした世間話をすることがあります。これが販売員たちとのコミュニケーションとなり、大切な活動の1つになっています。聞き役になることが多く、いろんな話を聞けるので、お話を聞くのが好きな方には楽しいボランティアかもしれません。

今年で日本での創刊が14年目になり、「活動はもちろん、雑誌の良さを多くの人に知ってもらいたい」と町田さんは言います。『ビッグイシュー』は、国内外のアーティストや著名人のインタビューから、社会問題を取り上げた特集、ホームレスの人生相談など、多様で意外性を楽しめる内容が魅力です。

ビッグイシュー名古屋ネットは活動開始から11年、ボランティアのみで運営を行い、現在、一緒に活動してくれる方を募集しています。今日もボランティアと協力して、販売員たちは街角で自立に向けてビッグイシューを販売しています。



ボランティアの生田さんと町田さん

Information

ビッグイシュー名古屋ネット

担当:小長井
名古屋市中区葵1-14-27 ミツ木荘1階F号室
携帯:070-6929-7688
Eメール:bigissue_nagoya@yahoo.co.jp
URL:https://bigissuenagoya3.wixsite.com/binn

☆ 販売場所 ☆

【名古屋駅】

・笹島交差点名鉄レジャック前 8:00～15:00頃
・JRゲートタワー前 8:00～14:00頃(月・木・土)

【栄】 三越東ポスト付近 8:30～お昼過ぎ

【今池】 今池ガスビル前 9:00～19:00頃

※ 都合により販売していない時もあります。

GO!GO! ボランティア 第20回 ひろ子が行く!

気軽にゆるボラ



ひろ子さんより

ボランティアは、さまざまな年代・職業の方々と交流できるところが魅力のひとつだと思います。まずは自分が興味ある分野のボランティアを探してみたいかながでしょうか。

ある日のひろ子さんの一日

10:00 事務所集合
訪問先の確認、手土産の食料用意
10:15 事務所出発、訪問先へ
11:00 1軒目の訪問先到着
11:30 次の訪問先へ移動
12:00 2軒目の訪問先到着
12:30 事務所へ戻る
13:00 訪問先で話したことを報告書に記入

私はもともと心理学に興味があり、習い事程度ですが心理学を勉強したことにより傾聴の大切さを知りました。そして、本当の意味で話を聴くということは難しいなと感じました。もっと上手く傾聴できるようになりたいと思っていたところ、傾聴ボランティアの存在を知りました。傾聴の練習ができて、しかも人の役に立てるところに興味を持ち、やってみたいと思っていたときに見つけたのが訪問ボランティアです。

訪問ボランティアとは、こちらからお宅におうかがいして話を聴くというものです。私がボランティアをやっている団体では、元ホームレスの方や生活保護で生活されている方を中心にサポートしており、体が不自由な方や精神的な病を抱えている方など、なかなか外出できない方も多くいます。一人暮らしの方や外との交流が少ない方が多いため、「話し相手が来てくれてうれしい」と喜んでいただけることもあり、特別な技術がない私でも人の役に立てていることがうれしく、やり

がいを感じています。話す内容はさまざま、お金のやりくりがきちんとできているか、体調のこと、困っていることはないかなど、気になることを確認しつつ、たわいない話もあれば、問題を抱えている方とは重い話になることもあります。楽しい話ばかりではありませんが、孤立しがちな方が多いため、訪問ボランティアの大切さを感じています。

私がこのボランティアを始めてから3～4年くらい経ちますが、ボランティアを続けているとはいえ、参加するのは月に1回程度で、基本的には仕事が休みの土日しか参加できません。ボランティアというと、強い志を持った人ばかりの集まりではと、ハードルが高く感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、私は正直そこまで強い気持ちはなくボランティアを始めました。ただ、少しでも人の役に立つことができればという軽い気持ちの私でも、周りの方々は受け入れて下さいました。そのおかげで、これまでボランティアを続けることができました。

ボランティアは人のためでもありますが、私はボランティアを始めてから自分のためでもあるのではと思うようになりました。人のためにと思いやってきましたが、得るものもたくさんありました。少しでも興味がある方は、まずは軽い気持ちで始めてみてはいかがでしょうか。私の周りでは、私のようなゆるいボランティアを「ゆるボラ」と呼んでいます。私は、これからゆるく自分のペースで続けていきたいと思っています。



月に一度のボランティア会議